

方針

組織体制の強化

今年度も時間を割いて加盟団と共に協議していきたい。そのためにも、オルグ活動を最優先項目として積極的なオルグ活動を展開していく。その中で青年団の意義、県青協の意義を確認しあい、共通認識をもって活動にあたり、新たな組織づくりに努めたい。

青年団の繋がり強化

青年団は全国組織であり、全国各地で様々な活動が展開されている。それぞれの地域活性、地域貢献の活動をさらに充実していくためにも、視野を広げ、様々な情報を得る必要がある。そのための交流の場や学びの場を多く提供していきたい。

社会活動への取り組み

青年団の必要性を社会にアピールし、県組織としての意義を見直し全うするためにも、県内一体となって取り組める社会活動に取り組む。

テーマについては今年度も引き続き

『輝』としたい。

平成26年度テーマ

かがやく

輝

～キラリ☆青年団～

※「青年団がもっと輝けるように」という気持ちを込めて、このテーマとしました。

1) 第63回宮崎県青年大会

期 日：平成26年8月30日（土）～31日（日）

場 所：宮崎県総合運動公園 宮崎県武道館 他

スポーツを通して各加盟団との連携を強めることや、地域に伝わる伝統文化・芸能の掘り起こしを目的として開催する。

スポーツの部、芸能文化の部ともに1人でも多くの方に参加していただき、他加盟団との交流で得られた経験を今後の活動に活かしていただきたい。

2) 第63回全国青年大会

期 日：平成26年11月7日（金）～10日（月）

場 所：東京都内各会場

日頃の練習の成果を全国場で試し、その中で全国の青年団と交流を持てる大変貴重な場である。この大会を通じて様々な感動や経験を得ていただき、地元での活動に繋げていただけるよう、多くの参加者を派遣したい。

3) 平成26年度MSK教養講座～明日を担う青年リーダー達へ～（宮崎県活動家研修会）

期 日：平成26年6月28日（土）～29日（日）

場 所：未定

新年度に入り、新しい役職になった人、新しく青年団に入った人、青年団で新しく目標を立てたいと思っている人の学びの場として開催する。年度当初にそれぞれの役割、目標を確認していただき、今年度のより良い活動に繋げていただきたい。

4) 平成26年度大夜会～もっと語ろう夜会～（宮崎県青年問題研究集会）

期 日：平成27年1月24日（土）～25日（日）

場 所：未定

青年団活動を通して生まれる疑問や不安を持ち寄り、各分科会のテーマに沿って他市町村の団員と語り合うことで、解決の糸口を探す場として開催している。また、1年の青年団活動の見直しを行い、新たな目標設定にも繋がる場となるため、ぜひ多くの方に参加していただきたい。

5) 平成26年度大交流会

期 日：平成26年7月19日（土）

場 所：未定

県内青年団同士での交流を行い、親睦を深めるとともに情報交換のできる場を設ける。

各加盟団からできるだけ多くの団員に参加していただけるよう企画・運営を行い、参加者が有意義な時間を過ごせるよう努めたい。

また、各加盟団においては多くの参加者を募り、積極的な参加をお願いしたい。

6) お邪魔させていただきます活動（オルグ活動）

年間を通して各加盟団の事業に出向き、県青協と各加盟団との連携の強化を図るとともに、意見交換の場として活用し、今後の青年団活動をより良いものにしていけるように努めていきたい。

7) 第45回九州青年祭 in 鹿児島

期 日：未定

場 所：鹿児島県

九州ブロック青年団で開催される事業であり、今年度は鹿児島県で開催される。現在、鹿児島県青年団を中心として九州ブロックの青年団がともに協議を重ね、企画を練っている。

青年が集い出会うことで、様々な人の考えや環境に触れ、そこで得たものを各地域での活動に活かしていただくために多くの参加者を募りたい。詳細については、決定次第お知らせする。

8) 2014年度全国地域青年「実践大賞」

本県では、様々な特色ある青年団活動が展開されている。この賞は、全国各地で展開されている特色ある実践を顕彰し、学びあい、青年たちの繋がりを作る機会として明日の地域づくりの一端を担うことを目的としている。

地域に根ざした各地域での青年団活動を振り返り、それを全国へアピールすることが出来る。昨年度以上の応募をお願いする。

9) 第60回全国青年問題研究集会

第60回と数える集会がどれほどあるだろう。全国各地で、それぞれの環境で青年団活動は展開されている。本県で活動する中で、行き詰まったり、普段の生活の中で悩んだりすることはないだろうか。青年の数だけ意見や悩みの数がある。地域での語り合いから一歩踏み出して全国規模の集会にフィールドを広げ、視野が広がり刺激を受けることで、解決の糸口が見つかるかもしれない。また、全国の青年と交流する機会にもなるので、各加盟団から多くの参加者を募りたい。

10) 宮崎県青少年団体連絡協議会

各加盟団体とも様々な問題を抱えているが、だからこそ相互連携の強化が重要である。県青協としても引き続き加盟をし、活動をより充実したものとするため、組織のありかたを検討していきたい。

11) 北方領土返還要求宮崎県民会議への参加

今年度も事務局として参加、活動していく。

不法占拠から68年が経過し、旧島民の方々の高齢化も進んでいる状況で、我々のような青年層が返還への思いを引き継ぎ、声を発信していかなければならない。

キャラバン隊についても、各加盟団からの参加・協力をお願いしたい。

12) 情宣活動

① 投げ込み

青年団活動を広く周知していくことは、新たな仲間を増やすと同時に青年団活動の認知度を上げることに繋がっていく。TV、新聞、ラジオ等へ積極的な情報の投げ込みを行いたい。県青協事務局までご一報いただき、宣伝活動に利用していただきたい。

② 県青協ホームページの活用

近年は青年大会の申し込みや要項のダウンロードに使用しているが、その他の県青協事業への活用等のあり方も踏まえ検討していきたい。

県青協ホームページアドレス→ <http://miyazakiseinen.com/wordpress/>



QRコード→

③ 日青新聞の定期購読

私たちの活動は、全国の青年団活動から情報を得ることで発展、変化することが多い。また、自分たちの情報発信としても積極的に活用していただきたい。本年度も各加盟団に定期購読をお願いする。

13) 2014年度全国青年団教宣コンテストへの推薦

教宣コンテストとは、機関紙やホームページなど青年団が情報発信している媒体・グッズのコンテストである。各加盟団が、社会に対する青年団の主張をどのように効果的に発信していくか、組織強化として団員同士の共通認識をどうすれば得られるかを形にしたものである。

本コンテストを活用することで、互いに刺激し合い自分たちの活動に役立ててもらいたい。

14) 会議

県青協の基幹会議は、定期大会のほか、代議員会を年3回開催することと規約に定めがある。昨年度は、例年同様委任状の提出が目立った。

基幹会議は、宮崎県内の青年団が協議し、そこで承認されたことは県内青年団の共通認識となるため、機関会議の重要性を再度認識していただき、活発な議論が展開されることを期待する。

15) 執行部

県青協規約には、会長1名、副会長4名、常任理事12名、監事3名、事務局長1名の計21名となっている。平成23年度には、県青協の存続についても協議をしたが今年度も役員の数を満たしておらず、十分な県青協運営を行うことができていない。

今後も、加盟団には県青協との繋がりと、自分たちの代表ということを認識していただき、役員選出に努めていただきたい。また、多くの加盟団員が役員立候補者として名乗りを挙げるような執行部の組織づくりに努めていく。

16) 事務局体制

今年度は事務局長1名と事務局員1名で運営を行っていく。円滑な事務局運営が遂行できるよう努めたい。

17) 事務局

新住所：〒889-2151 宮崎県宮崎市大字熊野字島山1443-12

電話番号 0985-89-5537 事務局携帯電話 090-5744-6062

FAX 0985-65-1958 携帯電話メールアドレス m_seinen_kendan@docomo.ne.jp

パソコンメールアドレス m_seinen@d2.dion.ne.jp

事務局勤務時間 9:30~17:30 (月・水・木曜日) 8:00~16:00 (火・金曜日)

18) 団員登録

県青協の運営を行うにあたって、団員確保は非常に重要である。加えて、会費は貴重な運営費である。各加盟団においては、団員登録を速やかに行っていただきたい。

(登録締切：平成26年7月18日(金) 必着)

また、個人会員の登録も認めることとなっている。加盟団のない地域に在住している者、加盟団の規約によって加盟団に登録出来ない者については随時登録を行い、少しでも青年団の仲間を増やせるよう努めていきたい。

19) 財産・予算

県青協の預金・備品・その他の資産管理については、事務局において管理する。

予算については、補助金額が年々少なくなっているため、健全な運営ができるよう自主財源の確保にも努めていく。

20) 宮崎県青年団協議会賛助会

賛助会員に対し、県青協運営に資するための賛助会費納入依頼を行っていく。